



欠損部補修・断面修復用プレミックスモルタル

【再乳化形粉末樹脂混入タイプ】

NPメガモルハード

施工要領書

【改定】2020年12月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

目次

1. 使用材料および調合

2. 壁面欠損部の施工方法

2. 1 下地処理および下地清掃

2. 2 シーラー塗布

2. 3 NPメガモルハードの塗付け

2. 4 養生

3. 天井面欠損部の施工方法

3. 1 下地処理および下地清掃

3. 2 はく落防止措置

3. 3 シーラー塗布

3. 4 NPメガモルハードの塗付け

3. 5 養生

4. 床面の施工方法

4. 1 下地処理および下地清掃

4. 2 シーラー塗布

4. 3 NPメガモルハードの塗付け

4. 4 養生

施工上の注意

使用材料及び調合

[使用材料]

使用材料	部位	塗厚の範囲	施工面積
NP メガモルハード	欠損部補修	5～60mm	0.3 m ² 以下
	壁・床面補修	5～15mm	—
備考	壁で深さ 25mm 以上かつ 0.3 m ² 以上、または天井面施工の場合は、ステンレス製アンカーピンを取り付け、ステンレスなまし線で補強を行う。		

使用材料		規格等
吸水調整材	NP シーラック	JIS A 6203 規格適合品

[調合／NP メガモルハード]

使用材料	荷姿	清水
NP メガモルハード	粉体 20kg	3.6 ～ 4.0 ℓ

[調合／NP シーラック ※5 倍希釈液]

使用材料	荷姿	原液	清水
NP シーラック	18 kg ペール缶	1 (18 kg)	4 (約 72 ℓ)

壁面欠損部の施工方法

壁面の欠損部補修に適用する際の施工フローを図1に示す。

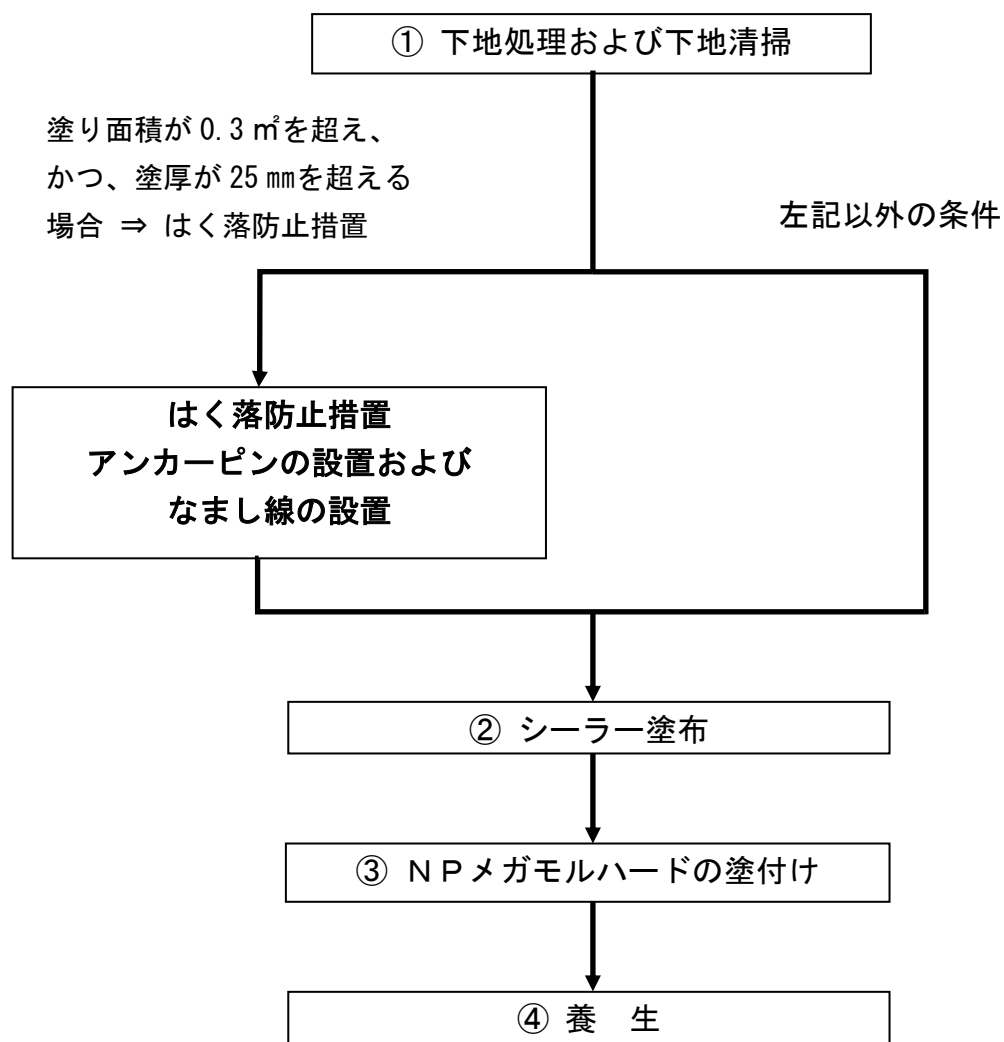


図1 壁面欠損部補修の施工フロー

2. 1 下地処理および下地清掃

コンクリート・モルタルの浮き部分および劣化したぜい弱部分は、はつり等を行って除去清掃を行う。露出した鉄筋は、ワイヤブラシ等により錆を完全に除去する。施工対象面の汚れおよび付着物は、ワイヤブラシおよび水洗いにより完全に除去し、油脂等が付着している場合は、溶剤拭きをして除去する。

*** 塗り面積が 0.3 m²を超え、かつ、塗厚が 25 mmを超える場合には、はく落防止措置としてステンレス製アンカーピン（φ 約 6 mm）を下地に対して深さを 30 mm程度、また、総塗厚の 2/3 程度となるように打ち込む（図 2 参照）。ピンの設置間隔は平面で 300～500 mm、鼻先等の役物で 100～150 mmを目安とし、千鳥状に設置する。ステンレス製なまし線を縦横方向でピンに結線する。**

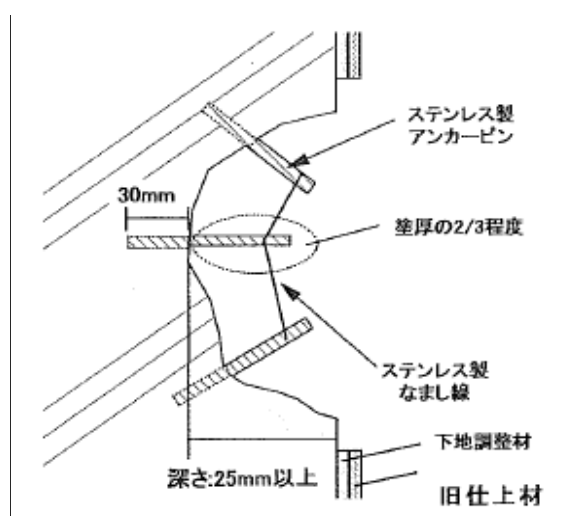


図 2 はく落防止措置の概要

2. 2 シーラー塗布

コンクリート・モルタルの施工対象面にNPシーラックの5倍希釈液を刷毛等で塗布する。次工程までの工程間間隔は、塗布したNPシーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

2. 3 NPメガモルハードの塗付け

(1) 材料の練混ぜ

NPメガモルハードの調合を表1に示す。混合容器に規定量より少な目の水を入れ、ハンドミキサー等でかき混ぜながら粉体を徐々に加え、まま粉ができないように均一に練り混ぜる。最後に残りの水を加減しながら加え、適正な軟度に調整する。材料投入完了後3分以上練り混ぜを行う。

なお、1回の練り混ぜ量は夏期30分以内、冬期60分以内に使い切る量とする。接着不良、強度低下の原因となるので、練混ぜ後長時間放置した材料の使用や材料の練足し、加水での練戻しは絶対に行わない。

表1 NPメガモルハードの調合

NPメガモルハード	清水
20 kg	3.6～4.0ℓ

(2) 塗付け

こて圧をかけて下地に擦り込むように、2～3mm程度をガリッと塗り付けた後、所定の厚さにNPメガモルハードを塗り付ける。水引き加減（NPメガモルハードの縮まり具合）を見計らい、こてむらのないように押さえ仕上げを行う。

***1回の塗厚は60mm以下とする(0.3㎡以内の壁面補修の場合)。**

***60mm以上に厚塗りする場合は、夏期1日以上、冬期3日以上の養生期間をとり、数回に分けて所定の厚みとする。**工程内間隔が長く、塗り重ね面の吸水が著しい場合には、NPシーラックの5倍希釈液を刷毛等で塗布し乾燥後塗り重ねる。

2.4 養生

仕上げ材施工までの養生期間は、20～35℃で3日以上、10～20℃で7日以上、5～10℃で10日以上とする。通風や直射日光による塗付け面の急激な乾燥を防止するため、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシート養生や散水養生を実施する。

1. 天井面欠損部の施工方法

天井面（上げ裏）の欠損部補修に適用する際の施工フローを図 3、図 4 に示す。

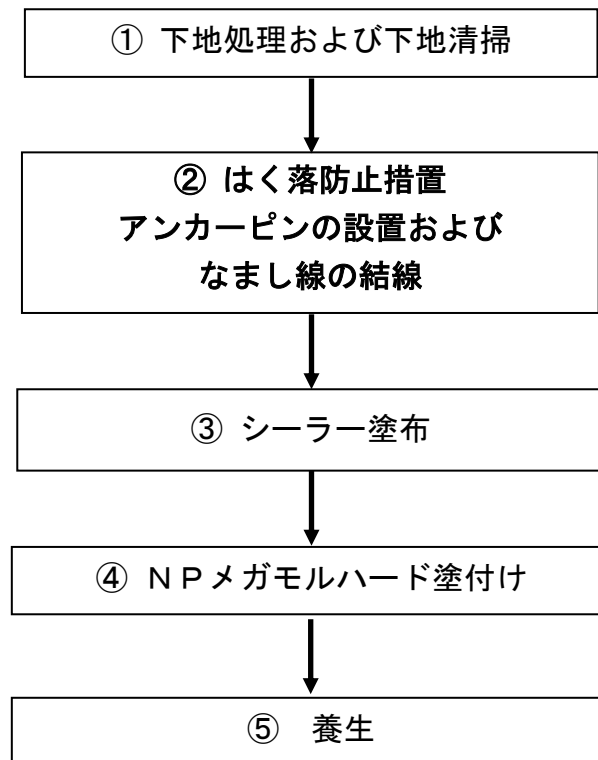


図 3 天井面欠損部補修の施工フロー

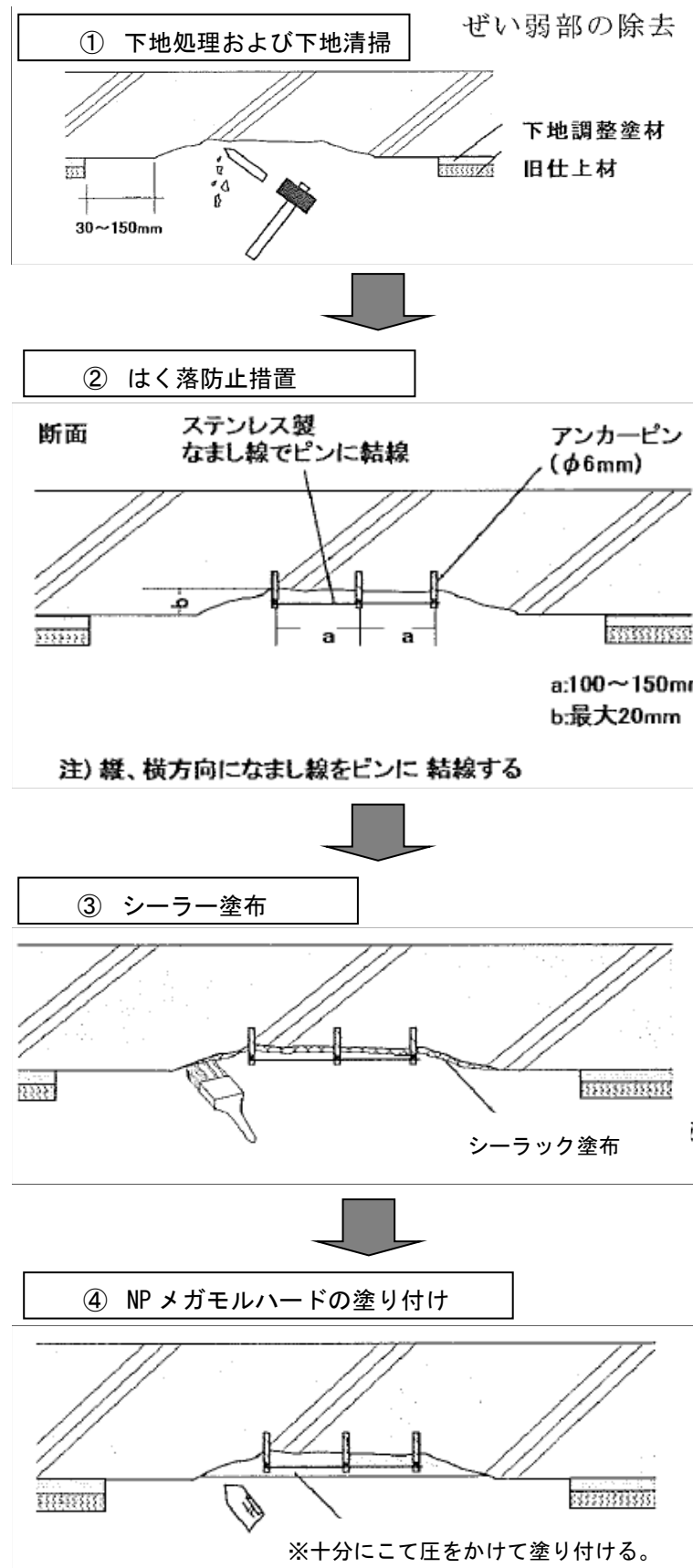


図 4 天井面欠損部補修の施工手順図

3. 1 下地処理および下地清掃

コンクリート・モルタルの浮き部分および劣化したぜい弱部分は、はつり等を行って除去清掃を行う。露出した鉄筋は、ワイヤブラシ等により錆を完全に除去する。施工対象面の汚れおよび付着物は、ワイヤブラシおよび水洗いにより完全に除去し、油脂等が付着している場合は、溶剤拭きをして除去する。

3. 2 はく落防止措置

はく落防止措置としてステンレス製アンカーピン（φ 約 6 mm）を下地に対して深さを 30 mm 程度、また、総塗厚の 2/3 程度となるように打ち込む。ピンの設置間隔は平面で 300 ～ 500 mm、鼻先等の役物で 100 ～ 150 mm を目安とし、千鳥状に設置する。ステンレス製なまし線を縦横方向でピンに結線する。

3. 3 シーラー塗布

N P メガモルハードを塗り付ける前に、ドライアウト防止のために、コンクリート・モルタルの施工対象面に N P シーラックの 5 倍希釈液を刷毛等で塗布する。次工程までの工程間間隔は、塗布した N P シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

3. 4 N P メガモルハードの塗付け

（1）材料の練り混ぜ

混合容器に表 1 に示す規定量より少な目の水を入れ、ハンドミキサー等のかき混ぜながら粉体を徐々に加え、まま粉ができないように均一に練り混ぜる。最後に残りの水を加減しながら加え、適正な軟度に調整する。材料投入完了後 3 分以上練り混ぜを行う。

なお、1 回の練り混ぜ量は夏期 30 分以内、冬期 60 分以内に使い切る量とする。接着不良、強度低下の原因となるので、練混ぜ後長時間放置した材料の使用や材料の練足し、加水での練戻しは絶対に行わない。

（2）塗付け

こて圧をかけて下地に擦り込むように、2 ～ 3 mm 程度をガリッと塗り付けた後、所定の厚さに N P メガモルハードを塗り付ける。水引き加減（N P メガモルハードの締まり具合）を見計らい、こてむらのないように押さえ仕上げを行う。

*** 天井面の施工では 1 回の塗厚は 20 mm 以下とする。**

*** 20 mm 厚を超える厚塗りは、避ける。**

3. 5 養生

仕上げ材施工までの養生期間は、20 ～ 35℃ で 3 日以上、10 ～ 20℃ で 7 日以上、5 ～ 10℃ で 10 日以上とする。通風や直射日光による塗付け面の急激な乾燥を防止するため、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシート養生や散水養生を実施する。

4. 床面の施工方法

4. 1 下地処理および下地清掃

下地のレイタンス、脆弱層、汚れ等をワイヤブラシ・カップ掛け・超高压洗浄等で除去し、健全な下地状態とする。

※特に雨叩れコンクリートの場合は、ポリッシャー等で研磨を行い、脆弱部分を完全に除去し健全な下地面を露出させる。

4. 2 シーラー塗布

N Pメガモルハードを塗り付ける前に、ドライアウト防止のために、コンクリート・モルタルの施工対象面にN Pシーラックの 5 倍希釈液を刷毛等で塗布する。次工程までの工程間隔は、塗布したN Pシーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させる。

4. 3 N Pメガモルハードの塗付け

(1) 材料の練混ぜ

混合容器に表 1 に示す規定量より少な目の水を入れ、ハンドミキサー等のかき混ぜながら粉体を徐々に加え、まま粉ができないように均一に練り混ぜる。最後に残りの水を加減しながら加え、適正な軟度に調整する。材料投入完了後 3 分以上練り混ぜを行う。

なお、1 回の練り混ぜ量は夏期 30 分以内、冬期 60 分以内に使い切る量とする。接着不良、強度低下の原因となるので、練混ぜ後長時間放置した材料の使用や材料の練足し、加水での練戻しは絶対に行わない。

(2) 塗付け

こて圧をかけて下地に擦り込むように、2～3 mm程度をガリッと塗り付けた後、所定の厚さにN Pメガモルハードを塗り付ける。水引き加減（N Pメガモルハードの締まり具合）を見計らい、こてむらのないように押さえ仕上げを行う。

*** 床面の施工では 1 回の塗厚は 15 mm以下とする。**

*** 15 mm厚を超える厚塗りは、避ける。**

4. 4 養生

仕上げ材施工までの養生期間は、20～35℃で 3 日以上、10～20℃で 7 日以上、5～10℃で 10 日以上とする。 通風や直射日光による塗付け面の急激な乾燥を防止するため、必要に応じて屋内では開口部の閉鎖、屋外ではシート養生や散水養生を実施する。

施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下になる場合には、施工を見合すか、採暖処置をとる。
- 混水量の過多・過少によりダレ、ひび割れ、強度低下などの不具合が発生する場合があるので、規定の混水量は厳守する。
- NP メガモルハードは既調合品であり、現場にて砂、セメントなどの混入は絶対に避ける。
- 製品は製造年月日を確認し、製造日から 3 ヶ月以上のものは使用しない。



日本プラスター株式会社

本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048

西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032